

栃木県の農林水産業の概要

特徴・取組

栃木県は、北部から西部にかけて那須連山、帝釈（たいしゃく）山地、足尾（あしお）山地の山岳地帯があり、南部には関東平野が広がり、那珂（なか）川、鬼怒（きぬ）川、渡良瀬（わたらせ）川が流れ、水資源が豊富である。

また、東京から60～160kmに位置し、東北縦貫自動車道や北関東自動車道、東北新幹線などの交通網も発達している。

栃木県の産業構造は、全国有数のものづくり県として発展を遂げた第2次産業、特に製造業の割合が高くなっている。

このため、県内総生産に占める第2次産業の構成比は44.3%で全国3位。

また、豊かな農産物や豊富で良質な水に恵まれ、首都圏の食料供給基地としての役割を担っている

栃木県では、食に関連する産業の振興を図ることにより、食をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる「フードバレーとちぎ」を目指す取組を推進している。

農業では、肥沃な農地と豊富な水資源、穏やかな気候に恵まれ、米麦、園芸作物、畜産など多彩な農畜産物が豊富である。

林業では、豊富な森林資源を活用し、素材生産、しいたけ等の特用林産物の生産が盛んである。

水産業では、那珂川や鬼怒川などの内水面で、ます類やあゆを中心に漁業や養殖が盛んである。

栃木県は、令和5年に新たな「園芸大国とちぎづくり推進方針」を策定し先端技術を活用した低コストで持続可能な施設園芸や、情勢の変化に対応できる大規模露地野菜産地の育成を推進している。

いちごやトマトの生産では、高い技術力を有しており、今後、ICT等の技術を活用することにより、収量や品質の更なる向上を目指している。

また、開発された品種や優れた生産技術の導入などにより、にらやアスパラガス、日本なしなどを主力品目として生産拡大を目指している。

主な農林水産物

米

コシヒカリ・とちぎの星・なすひかり等を作付け。

県育成のとちぎの星は「令和の大嘗祭」の献上米。



麦

二条大麦（ビール麦）を中心に小麦や六条大麦などの麦類を作付け。

（二条大麦の収穫量全国1位）



いちご

県育成のとちあいかやとちおとめ、スカイベリーが栽培され、収穫量は半世紀以上日本一。

（収穫量全国1位）



トマト

高軒高（こうのきだか）ハウスやICT等新技術を取り入れ多収量の周年栽培。

（収穫量全国5位）



にら

いちご、トマトに次ぐ産出額を誇る重要野菜。

県育成のゆめみどりを普及することにより収穫量日本一を目指す。

（収穫量全国2位）



かんぴょう

県央・県南部の畑作地帯がゆうがおの主産地であり、国内生産量の9割以上を占める。

（収穫量全国1位）



アスパラガス

水田の活用や畜産農家と連携した良質な堆肥の活用などにより県内全域で作付け。

（収穫量全国4位）



日本なし

幸水・豊水が主力品種だが、あきづきや県育成ののっこりなどの晩生種の導入により、出荷期間が拡大し海外へも輸出。

（収穫量全国4位）



乳用牛（生乳）

県北部を中心に北海道に次ぐ、5.3万頭を飼養、生乳の生産も盛ん。

（飼養頭数全国2位）



肉用牛

「とちぎ和牛」としてブランド化され、アメリカ、シンガポール等に輸出。

（飼養頭数全国7位）



栃木県内の各地域における農林水産物

県北地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、いちご、にら、なす、トマト、ねぎ、うど、アスパラガス、かんしょ、日本なし、りんご、そば、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、乳用牛（生乳）、肉用牛、豚、鶏卵

【林産物】 生しいたけ、まいたけ

【水産物】 にじます、あゆ、ヤシオマス

県南地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、六条大麦、そば、いちご、かんぴょう、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、かき菜、アスパラガス、にら、ぶどう、トルコギキョウ（切り花類）、肉用牛、豚

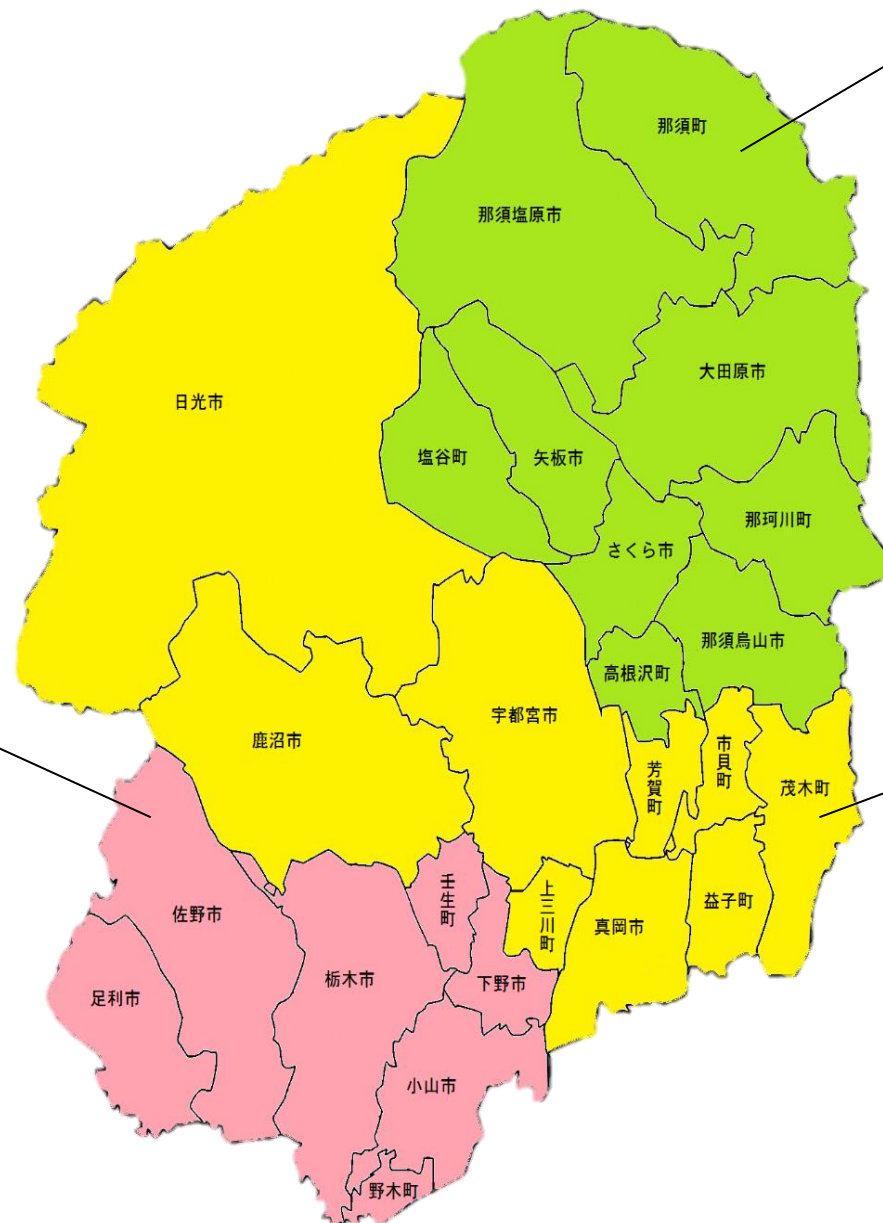
【林産物】 生しいたけ

県央地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、いちご、六条大麦、落花生、にら、こんにゃくいも、さといも、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、アスパラガス、日本なし、そば、えごま、シクラメン（鉢もの類）、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、鶏卵

【林産物】 生しいたけ

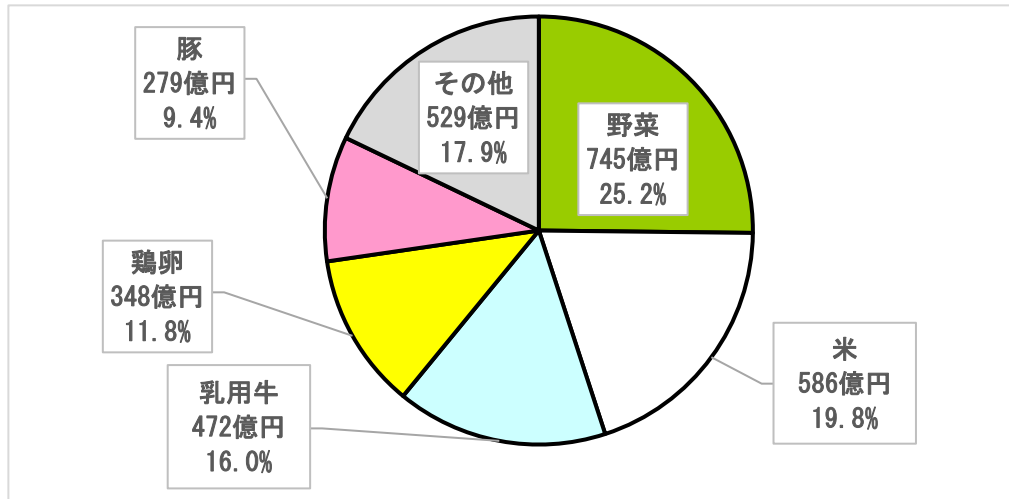
【水産物】 にじます、あゆ



栃 木 県 の 農 業 (1)

- ・農業産出額は2,959億円で全国10位。うち米が586億円(19.8%)、野菜が745億円(25.2%)、畜産が1,367億円(46.2%)。
- ・農畜産物の生産状況は、二条大麦、いちご、かんぴょうが全国1位、にら、乳用牛、生乳が2位、アスパラガス、日本なしが4位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区 分		年次	栃 木 県	全 国	全国順位
二条大麦	収穫量	R6	31,300 t	119,100 t	1 *
トマト	収穫量	R5	31,000 t	681,400 t	5
にら	収穫量	R5	8,220 t	55,100 t	2
アスパラガス	収穫量	R5	1,700 t	24,600 t	4
いちご	収穫量	R5	24,600 t	161,800 t	1
日本なし	収穫量	R6	14,600 t	172,700 t	4
肉用牛	飼養頭数	R6	86,700 頭	2,672,000 頭	7
乳用牛	飼養頭数	R6	52,800 頭	1,313,000 頭	2
生乳	生産量	R6	350,055 t	7,357,451 t	2
かんぴょう	収穫量	R4	164 t	165 t	1

出典:「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「地域特産野菜生産状況」

農業産出額のデータ

区 分	栃木県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	2,959 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	10
米	586 億円 (19.8)	15,193 億円 (16.0)	8
麦類	50 億円	678 億円	2 *
雑穀	6 億円	77 億円	4
豆類	5 億円	572 億円	17
いも類	10 億円	2,301 億円	21
野菜	745 億円 (25.2)	23,243 億円 (24.5)	9
果実	89 億円 (3.0)	9,590 億円 (10.1)	25
花き	74 億円	3,522 億円	15
工芸農作物	2 億円	1,467 億円	30
その他作物	19 億円	585 億円	6 *
畜産	1,367 億円 (46.2)	37,212 億円 (39.2)	7
肉用牛	251 億円	7,696 億円	6
乳用牛	472 億円	9,249 億円	2
生乳	435 億円	8,310 億円	2
豚	279 億円	7,194 億円	10
鶏	363 億円	12,033 億円	13
鶏卵	348 億円	7,413 億円	7
ブロイラー	x 億円	4,471 億円	- *
その他畜産物	3 億円	1,041 億円	19
加工農産物	7 億円	513 億円	14

出典:「令和5年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注:()は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「0」:単位に満たないもの(例:0.4t→0t)

「-」:事実のないもの

「…」:調査を欠くもの

「x」:秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」:秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

栃 木 県 の 農 業 (2)

- ・耕地面積は12万400haで全国9位。うち田が9万3,600ha、畑が2万6,800ha。
- ・農業経営体数は3万2,726経営体で全国10位。うち法人経営体が557経営体で25位。
- ・市町村認定及び都道府県認定経営体数は7,644経営体で全国8位。うち法人数が546法人で24位。
- ・農業生産関連事業は、農産物直売所の年間販売（売上）金額が348億円で全国9位、事業体数は510事業体で18位。

耕地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
耕地面積	120,400 ha	4,272,000 ha	9
田	93,600 ha	2,319,000 ha	7
畑	26,800 ha	1,952,000 ha	16
普通畑	22,300 ha	1,118,000 ha	15
樹園地	2,010 ha	248,600 ha	36
牧草地	2,490 ha	585,900 ha	12
参考) 総土地面積	6,408.09 km ²	37,797,568.00 km ²	20

出典：「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	1,970 ha	256,676 ha	36

出典：「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農業経営体数	32,726 経営体	1,075,705 経営体	10
法人経営体	557 経営体	30,707 経営体	25
総農家数	46,202 戸	1,747,079 戸	15
販売農家	31,993 戸	1,027,892 戸	10
参考) 世帯総数	796,923 世帯	55,830,154 世帯	19
集落営農数	233 集落営農	13,998 集落営農	25

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落営農実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	65,755 ha	2,593,345 ha	9
集積率	54.5 %	60.4 %	15

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	42,914 人	1,363,038 人	10
男	25,613 人	822,144 人	9
女	17,301 人	540,894 人	10
65歳以上	29,822 人	948,621 人	8
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	69.5 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	7,644 経営体	216,784 経営体	8
法人数	546 法人	29,128 法人	24
参考) 人口総数	1,933,146 人	126,146,099 人	19

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農産加工	総額 25,993 百万円 事業体数 680 事業体	999,786 百万円 27,760 事業体	15 15
農産物直売所	総額 34,750 百万円 事業体数 510 事業体	1,126,420 百万円 21,240 事業体	9 18
観光農園	総額 1,527 百万円 経営体数 140 経営体	37,281 百万円 5,050 経営体	9 13
農家民宿	総額 29 百万円 経営体数 20 経営体	5,352 百万円 1,140 経営体	33 * 14
農家レストラン	総額 1,358 百万円 事業体数 40 事業体	39,434 百万円 1,360 事業体	8 * 8

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

栃 木 県 の 林 業

- ・林業産出額は113.8億円で全国12位。うち木材生産が81.6億円、栽培きのこ類生産が31.8億円。
- ・林産物の生産状況は、素材生産量が全国11位、生うるしが全国3位、広葉樹が6位、まいたけが7位、ひのき、生きくらげ類が8位。

林業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業産出額	113.8 億円	5,562.5 億円	12
木材生産	81.6 億円	3,257.0 億円	9
栽培きのこ類生産	31.8 億円	2,199.2 億円	20

出典：「令和5年林業産出額」

林産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
素材生産量	623 千m ³	20,647 千m ³	11
針葉樹	550 千m ³	18,926 千m ³	13 *
す ぎ	379 千m ³	11,917 千m ³	10
ひのき	147 千m ³	3,180 千m ³	8 *
広葉樹	73 千m ³	1,721 千m ³	6 *
生しいたけ	生産量 2,609 t	63,374 t	9
まいたけ	生産量 204 t	55,290 t	7 *
生きくらげ類	生産量 69 t	1,680 t	8 *
生うるし	生産量 80 kg	1,651 kg	3

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

林野面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林野面積	339,113 ha	24,770,201 ha	28
国有林	118,663 ha	7,153,338 ha	15
民有林	220,450 ha	17,616,863 ha	34
人工林面積	154,151 ha	10,133,111 ha	28

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

製材工場数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
製材工場数	100 工場	3,749 工場	13
製材用素材の入荷があった工場数	93 工場	3,722 工場	15
国産材のみ	90 工場	3,116 工場	12
国産材と輸入材	3 工場	511 工場	35

出典：「令和5年木材統計」

林業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業経営体数	1,015 経営体	34,001 経営体	9
法人経営体	64 経営体	4,093 経営体	24

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

栃 木 県 の 漁 業

・水産物の生産状況は、内水面漁業のあゆが全国2位、内水面養殖業のあゆが4位。

漁業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	－ 億円	15,265 億円	－
海 面 漁 業	－ 億円	9,534 億円	－
海 面 養 殖 業	－ 億円	5,731 億円	－

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	0 経営体	65,662 経営体	－
内水面漁業経営体数	71 経営体	4,076 経営体	18

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	0 人	121,389 人	－
男	0 人	109,757 人	－
女	0 人	11,632 人	－

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
漁船隻数	0 隻	109,283 隻	－
動力漁船	0 隻	58,906 隻	－

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	… t	3,777,921 t	－ *
海面漁業漁獲量	… t	2,926,411 t	－
海面養殖業収獲量	… t	851,509 t	－ *
内水面漁業・養殖業生産量	968 t	51,908 t	12 *
内水面漁業漁獲量	296 t	21,567 t	6 *
あゆ	292 t	1,697 t	2 *
内水面養殖業収獲量	672 t	30,341 t	10 *
あゆ	276 t	3,385 t	4 *

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分		栃 木 県	全 国	全国順位
水産加工	総額	－ 百万円	179,159 百万円	－ *
	事業体数	－ 事業体	1,220 事業体	－
水産物直売所	総額	－ 百万円	34,988 百万円	－ *
	事業体数	－ 事業体	810 事業体	－
漁家民宿	総額	－ 百万円	5,389 百万円	－ *
	経営体数	－ 経営体	540 経営体	－
漁家レストラン	総額	－ 百万円	13,249 百万円	－ *
	事業体数	－ 事業体	380 事業体	－

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

栃木県の農林水産業の話題等（１）

「栃木県産農産物ブランド化推進方針」の策定

栃木県では、“選ばれる栃木の農産物”の実現に向け、「いちご王国・栃木」のイメージのもと「オリジナル品種」や「食卓を支える農産物」のブランド価値向上に取り組んできた。その結果、「いちご王国・栃木」をはじめ、スカイベリーやとちぎ和牛等の認知度が向上する等の一定の成果が得られた一方で、消費者が栃木県産を選んで購入する農産物はいちご等の一部品目にとどまっている。

また、消費者意識の多様化、デジタル社会の進展、物流2024年問題等、農産物の生産・流通・販売に関する環境は大きく変化している。

そこで、国内外から選ばれる栃木の農産物を実現するため、令和7年3月に県産農産物全体のブランド化推進に関する基本的な考え方である「栃木県産農産物ブランド化推進方針」を策定し、3つの戦略により栃木県産農産物のブランド化に取り組んでいく。

【ブランド化推進の基本方針】

戦略1 県産農産物のイメージ向上

県産農産物の豊富さや新鮮さなどの共通コンセプトに基づくプロモーションを展開し、県産農産物全体のイメージ向上。

戦略2 ブランド製品の差別化

市場における成長率と県産シェア率からポジション類型を区分し、類型に応じた取組によりブランド製品の差別化。

戦略3 ブランド価値を支える生産・流通体制の構築

消費者から信頼を得るため、安全・安心を基本に、安定的かつ食味・品質を重視した生産・通体制を構築。



栃木県産農産物ブランド化推進方針の概念図

栃木県林業大学校 第一期生卒業

令和6年4月に開校した、栃木県林業大学校の第一期生の卒業式が令和7年3月14日に行われた。「就業前長期過程」（期間1年）の学生は男性17名、女性4名の21名で、全員が卒業。1日6時間、209日間のカリキュラムで林業・木材産業について学習し、林業現場に必要な林業機械など14種類の資格を取得。

卒業後は県内の森林組合や林業関係企業などへ就職し林業の担い手として新たな一歩を踏み出す。



栃木県林業大学校 第一期生
(林業大学校提供)

栃木県の農林水産業の話題等（２）

「いちご王国・栃木の日」イベントを開催

いちごの生産量56年連続日本一を誇る栃木県では、1月15日の「いちご王国・栃木の日」を記念して、県産いちごの生産振興と関連産業のさらなる発展を図るため、令和7年1月19日（日曜日）に県庁舎周辺でイベントを開催。

イベントでは、県庁いちごホール（県庁本館1階県民ロビー）での生鮮いちごやいちごの加工品、雑貨等を販売する22店舗が出展した「いちご王国」マルシェのほか、県民広場での「出張いちご狩り体験」や芝生広場での「いちご型熱気球搭乗体験」が行われ、様々な形で多くの方が「いちご王国・栃木」の日を楽しむ姿が見られた。

県議会議事堂1階ロビーでは、ブラスバンド演奏やファッションショーのほか、ダンス、ミュージカルなどさまざまなステージイベントが開催され、華やかなパフォーマンスに大きな拍手が送られた。

いちご王国の国王である福田知事は「本イベントを契機として、みなさまの心の中の『いちご愛』をより一層大きなものへと育てていただきたい。」と挨拶し、県内各地で開催されるいちご関連イベントや、「大切な人にいちごを贈ろう運動キャンペーン」への参加も呼びかけた。



出張いちご狩り体験の様子

「水稻有機栽培実践マニュアル」公開

栃木県では、令和5年3月に「とちぎグリーン農業推進方針」を策定し、有機農業の取組面積を現在の450haから2027年には2倍の900haに拡大する目標を掲げ、市町や関係団体と連携し、オーガニックビレッジづくりなどの取組を積極的に推進している。

この取組の一貫として県内で最も作付面積の多い水稻について、令和7年2月に水稻有機栽培実践マニュアルを作成した。

今回は、水稻有機栽培における先進的に取組んでいるNP0法人の協力のもと、「成苗移植」と「深水管理」による雑草の生育を抑制する技術を中心に取りまとめた。

今後、本マニュアル等を活用し推進を図っていく。



「水稻有機栽培実践マニュアル」（栃木県）